

2026年04月21日(火)【外為Lab】松田哲  
タイトル:【マーケットの反応が、鈍くなってきた】

米国とイスラエルが、イランに対して戦闘を開始したのが、2月28日(土)だったので、もうすでに、おおよそ2か月近くの期間、戦争状態が続いている。

この戦争が始まってからすぐに、トランプ大統領は、  
「この戦争は、早々に終結する」  
といった内容の発言を繰り返している。

マーケット(金融市場や原油市場、株式市場、など)は、こういったトランプ大統領の発言に期待感を持ち、その都度、それ相応に反応してきた。

しかしながら、残念なことに、結局のところ、米国とイスラエル対イランの戦争状態が続いている。

+++++

もちろん、米国とイスラエル対イランの戦争が終結することは、望ましいと考えます。

しかし、トランプ大統領の思惑通りに事が運んでいないことは、明らかだ、と考えます。

トランプ大統領の発言は、米国の中間選挙を意識した選挙対策を含んでいる、と考えます。

ガソリン価格が上昇した状態が続くと、トランプ政権の支持率が低下し、トランプ大統領にとって、中間選挙に悪い影響を及ぼす、と考えます。

トランプ大統領は、そうならないように、米国民向けに、リップサービスを行っている、と考えます。

ホルムス海峡の開放に向けて、トランプ大統領がイランに働きかけているのも、原油価格の高騰を意識している、と考えます。

残念ながら、ホルムス海峡の問題に関しても、トランプ大統領の思い通りにはなっていない、と考えます。

+++++

対イランの事柄に限らず、トランプ大統領の発言は、コロコロと変わることが多々ある、と  
考えます。

それは、その場しのぎで、米国民の反応を気にしているからだ、と考えます。

+++++

当面のところ、このような状況が続くのだろう、と考えます。

マーケット（金融市場や原油市場、株式市場、など）の反応を見ても、この米国とイスラエ  
ル対イランの戦争状態に慣れてきている、と考えます。

別な言い方をすれば、マーケットの反応が、一喜一憂せずに、鈍くなってきた、と感じ  
ます。

+++++

こういった状況下で、日本のインフレ状態は加速している、と考えます。

今回の米国とイスラエル対イランの戦争も、原油価格の上昇といった理由で、日本のインフ  
レ状態を加速させる要因となっています。

そう考えていくと、以下のように導かれます。

そのインフレの原因が何であれ、一般論として、日本のインフレが加速するのならば、日本  
の株価は上昇する、と考えるべきであろう。

そして、日本の不動産価格も上昇する、と考えるべきであろう。

金価格（ゴールド価格）も上昇する、と考えるべきであろう。

外国為替市場に関しても、日本のインフレ状態が続くならば、円安傾向は維持される、と  
考えるべきであろう。

+++++  
+++++

(2026年4月21日東京時間14:50記述)

